

みんなの人権110番 (全国共通)

0570-003-110

子どもの人権110番 (全国共通・通話料無料)

0120-007-110

女性の人権ホットライン (全国共通)

0570-070-810

*一部のIP電話からは接続できません。
*受付時間 / 平日午前8時30分から午後5時15分まで

インターネット人権相談受付窓口

インターネット人権相談 検索



- パソコンからは
<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken113.html>
- 携帯電話からは
http://www.moj.go.jp/k/SOUDAN/JINKEN/index_k15.html

人権ライブラリー

人権に関する資料(図書、ビデオ、DVD、展示パネル)を借りたい方、お探しの方、人権に関する視察・研修や打ち合わせスペースをお探しの方は、人権ライブラリーをご利用下さい。
遠方の方でも郵送等による貸出も行っています。詳細は、下記までお問い合わせいただくか、人権ライブラリーのホームページをご参照ください。

人権ライブラリー

※公益財団法人 人権教育啓発推進センター併設
〒105-0012 東京都港区芝大門 2-10-12 KDX 芝大門ビル 4F
TEL: 03-5777-1919 FAX: 03-5777-1954 Eメール: library@jinken.or.jp
ホームページ: <http://www.jinken-library.jp/>
開館時間: 9:00~17:00 (土日、祝日、年末年始は休館)

人権ライブラリー 検索

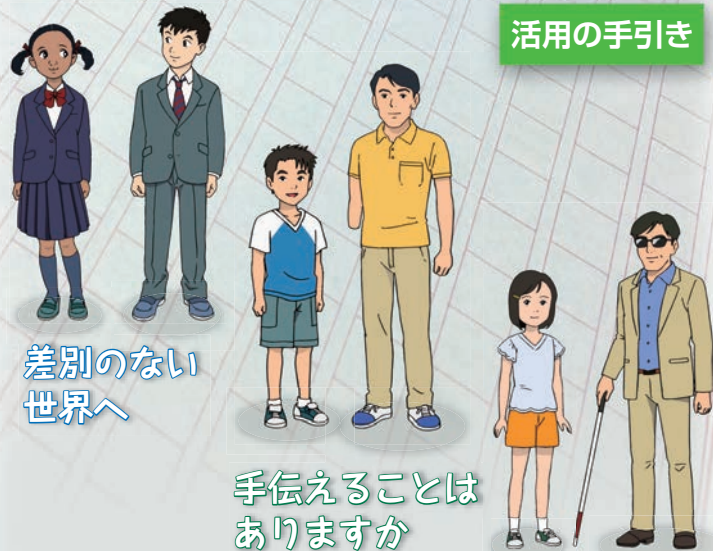
*この人権啓発ビデオは、動画共有サイト You Tube の法務省チャンネル (<https://youtube.com/MOJchannel>) と人権チャンネル (<https://youtube.com/jinkenchannel>) でもご覧になれます。

平成28年度
法務省委託 人権啓発ビデオ

わたしたちが伝えたい大切なこと

—アニメで見る 全国中学生人権作文コンテスト入賞作品—

活用の手引き



共に生きる
ということ

審査員長からのメッセージ

全国中学生人権作文コンテスト中央大会
審査員長(作家) 落合 恵子

31分

字幕(日本語/英語)
副音声入り

企画 法務省人権擁護局
公益財団法人 人権教育啓発推進センター

制作 毎日映画社



このDVDのねらい

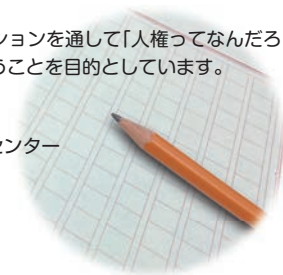
このDVDでは、「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品に基づいて制作されました。どの作品も、日常生活の中で「人権」について理解を深めていった気付きのプロセスを描いています。

入賞作品を原作とした3つのアニメーションを通して「人権ってなんだろう」と、自分自身の問題として考えてもらうことを目的としています。

企画 ● 法務省人権擁護局

公益財団法人 人権教育啓発推進センター

制作 ● 毎日映画社



わたしたちが伝えたい、大切なこと

もくじ

このDVDのねらい	2
全国中学生人権作文コンテストについて	3
DVDの内容・構成	3

差別のない世界へ

登場人物紹介	4
あらすじ	5
原作全文	6
授業展開例	8

手伝えることはありますか

登場人物紹介	10
あらすじ	11
原作全文	12
授業展開例	14

共に生きるということ

登場人物紹介	16
あらすじ	17
原作全文	18
授業展開例	20
板書例	22

『全国中学生人権作文コンテスト』について

法務省と全国人権擁護委員連合会は、中学生が豊かな人権感覚を身に付けることを目的として、昭和56年度から「全国中学生人権作文コンテスト」を実施しています。

※対象：中学校に在学する生徒（外国人学校に在学する者で中学生に準ずる生徒を含む）及び特別支援学校の中学部に在学する生徒

※作文の内容：日常の家庭生活、学校生活、グループ活動あるいは地域社会との関わりなどの中で得た体験等を通じて、基本的人権の重要性、必要性について考えたことなどを題材としたもの。

全国中学生人権作文コンテストホームページ

<http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken111.html>

人権作文コンテストの応募方法の詳細等については、最寄りの法務局・地方法務局までお問い合わせください。

DVDの内容・構成

『差別のない世界へ』……………8分

[全編再生 31分]

原作：平成22年度文部科学大臣奨励賞 受賞作品

『手伝えることはありますか』……………7分

原作：平成26年度法務事務次官賞 受賞作品

『共に生きるということ』……………7分

原作：平成25年度法務事務次官賞 受賞作品

審査員長からのメッセージ……………8分

全国中学生人権作文コンテスト中央大会
審査員長(作家)

おち あい けい こ
落合 恵子

登場人物紹介



三井雄太(13)

リサと同じクラスの男子。
リサの気持ちを考えずに、
リサの容姿をからかう。



モーガン・リサ(13)

アメリカ人の父と日本人の
母を持つ。



リサの父親(43)

アメリカ人。



リサの兄(15)



人種による偏見や差別



サッカーの試合で人種差別を意図してバナナが投げ入れられた事件



特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動によるデモ

あらすじ

中学生である主人公が、自らの経験を通して差別される側の心の痛みを知り、父の言葉を思い起こして差別に立ち向かう勇気を得る経緯を描きます。



「Pick your head up!」
アメリカ人の父と日本人の母を持つリサは、自分の容姿が周り
と違うことから、子どもの頃から指をさされたり、仲間外れに
されることがあった。

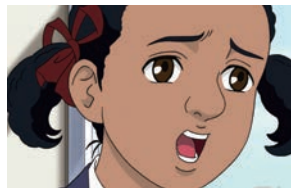


そんな時、いつも父親は「Pick
your head up!」(顔をあげなさい、
下を向かない)と話してくれた。



自分の容姿をからかってくる中
学校の同級生の雄太に対し、父
親の言葉を思い起こしたリサは
毅然として気持ちを伝えること
ができた。

『外見が違って、私たちは同じ
心を持つ人間よ』というリサの
訴えに、雄太はリサの気持ちを
何も考えていなかったことに気
がつく。



『差別のない世界へ』

原作全文

「Pick your head up!」

これは父がいつも私にかけてくれる魔法の言葉です。

「顔をあげなさい。下を向かない」という意味です。

私の父は、生まれも育ちもニューヨークのアメリカ人です。女の子は父親に似るとよく言われますが、私もそうで、日本人の母親よりも父の方に髪質も肌の色も本当によく似ています。子供が親に似ることはあたりまえのことですが、私はそのためにいやな思い、悲しい思いをいくどとなくしてきました。

初めて自分がみんなとちがうんだと思ったのは幼稚園に入学してまもなくのことでした。同じ組の女の子たちが何人かして楽しそうに遊んでいた

ので、

「まぜて!」

と、声をかけると一人の子が言いました。
「このグループは、日本人で髪がまっすぐな人しか入れないの。リコちゃん

は髪がチリチリだし、ハーフだからダメ!」と。

私はとても悲しくなりました。そしてそれは卒園するまで続きました。
小学校は人数も少なかつたせいか、みんなとても仲良く、私の外見のことを言う人はだれ一人いませんでした。まるで兄弟のようにみんな自然に接してくれました。でも、習い事やいろいろな大会など、他校の子たちといっしょになる場面では、やはり髪の毛や肌のことをからかわれることはよくあることでした。私には二学年上の兄がいますが兄も、やはり父の方に似ています。おだやかな性格の兄は、私以上に辛い思いをしてきたと思います。父は兄や私の話を聞くたびに「Pick your head up!」と言いました。そして、

「自分に自信とほごりをもちなさい。あなたたちは二つの文化を受けついで、それはとてもすばらしいことなんだよ。」と、いつも話してくれました。

中学に入って間もないころでした。ある男の子がいきなり私に向かって言いました。

平成22年度文部科学大臣奨励賞

福島県・福島市立渡利中学校1年 ローリンズ リコ

※学校名、学年は受賞当時

「おまえ、風呂に入っているのか?黒いぞ。外国人はくさいからな。」

私はとてもはすかしくなりました。そしていかりや悲しみがこみあげてきました。まわりにいた友達は彼の言葉に苦笑いをしていました。私はいかりのあまり彼をなぐりたくなりました。その時、私は父のあの言葉を思い出しました。私は顔を上げ相手の目を見て、静かに自分の傷ついた気持ちを伝えました。

彼は私に向かってこう言いました。

「ごめん、わかった。」

彼は人を傷つけるということが彼の想像以上に重く、そしてひどいことだと少し気付いたようでした。

差別やいじめというのは、私たちのまわりでは小さなことから大きなことまで本当によくあります。そして差別やいじめをしている側からすれば、それをじょう談だという人も多いのです。まわりの人たちもやはりじょう談や遊びの中でのことにとらえてしまう人たちもとても多いのです。だから、小学校の時から私たちは道徳などでいじめや人権などについて学んでいてもなかなかそれがなくなるのだと思います。でも実際に、差別やいじめをされている方はみんなの想像よりはるかに傷ついているということ、つらいということ、そして悲しいということを私はこの人権作文を通して、たくさんの人に知ってほしいのです。けがをすれば日がたつごとにそのけがは治っていくでしょう。まわりからも治っていく様子が見てわかるでしょう。でも心に受けた傷は本人にしかわからないのです。その傷がどんなに深くて痛いものか本人にしかわからないのです。

肌の色が違っていてもかみの毛が違っていても私たちはみんな同じ人間です。心を持った人間です。相手の気持ちを思いやり、相手の立場になって考えれば、いじめや差別はなくなると思います。今も世界のいたるところで人種差別が問題となり争いが起きています。私は世界から差別やいじめがなくなるように強い心を持って、まずは自分から立ち向かっていきたいです。

授業展開例

50分の授業で
『差別のない世界へ』
を上映した場合

時間		項目	内容	留意点
0:00	2分間	はじまり	<ul style="list-style-type: none"> ●入室 ●担任による講師紹介 	
2:00	5分間	導入	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の流れ紹介「全国中学生人権作文コンテスト」について知っていますか？ 	
7:00	5分間	話し合い ①	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者の意見を聞く。 ①身近なところで差別だと感じた出来事がありますか？ ②また、差別を見たり聞いたりした時にどう思いましたか？ 	●板書例① 参加者の意見を板書にする。
12:00	8分間	DVD視聴	<ul style="list-style-type: none"> ●『差別のない世界へ』を再生 	

時間		項目	内容	留意点
20:00	15分間	話し合い ②	<ul style="list-style-type: none"> ●参加者の意見を聞く。 ①主人公リサは幼い頃から容姿の違いで仲間外れにされ、どのような気持ちでしたでしょうか？ ②リサが自分の気持ちをしっかりと伝えると決めたとき、どんな心の変化があったでしょうか？ ③雄太はリサの訴えを聞いて、どう感じましたでしょうか？ ④差別をなくすためにできることはどのようなことだと思いますか？ 	●板書例② 参加者の意見を板書にする。 ※意見は紙に記入させてもよい
35:00	15分間	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ①今日の授業を受けて、どのような感想を持ちましたか？ ②人権についての意見や考え方に変化はありましたか？ ③身近なところで、「人権」とはどのようなことか、考えたことがあれば教えてください。 	●板書例③ 参加者の意見を板書にする。 ※アニメとは状況が違ったり、同じような行動はできないかもしれないので、そういう時には相談してほしいということを伝える。 ※相談方法は最後のページを参照

登場人物紹介



郁人の父親(41)
仕事の事故で右手を失っ
てしまう。



郁人(14)
父親の事故をきっかけに、
自分が代わりに何でもやっ
てあげようと思いつく。

あらすじ

事故で右手を失った父に対して「何でもやってあげよう」と考えた主人公ですが、実際の父との暮らしのなかでやがて大事なことに気がきます。



「父親の助けになりたい」
郁人は突然の事故で右手を失ってしまった父親の役に立ちたいと思い、父親の身の回りの世話を何でもしてあげるようになる。



右手がないことを他人に気付かれないようにすることも、父親のためと思っていた。



「オレはやればできる子だから」
父からそう言われて手伝いを断られた郁人は、自分の考えが独りよがりだったことに気付く。



『手伝えることはありますか』

原作全文

「俺はやればできる子だから。」

父は笑いながらそう言います。三年前、父は仕事中の事故で怪我をしました。会社からの連絡を受け、母、弟、私で病院へ行くとそこには、ベッドに横たわり、一人涙を流す、右手を失くした父の姿がありました。初めての父の涙に私は、戸惑い、不安さえ覚えました。しかし、ふと冷静になった私は、「家族が障がいを負ったのだから、自分が身の回りの事を全てやってあげなければならぬ。それが最善である。」そのときは、そう思っていました。

それから、私は、積極的に父の手伝いをするように心がけました。お風呂の時に背中を洗う、ペットボトルのキャップを閉める、そして、靴ひもを結ぶ。大変だとは思いましたが、それ以上に、「自分は良い事をした、感謝されている。」という、幸福感がありました。

しかし、父と行動を共にすることに対して、最初は多少の抵抗がありました。なんといっても、隣りを歩いているのは右手の無い人なのです。義手で隠すといっても限界があります。シリコンでできているため、人の肌の質感と違いますし、なにしろ指が動かないため、一つ一つの動作が不自然になってしまうのです。ですから、父の手伝いをして極力手を使わせないことは、他の人に義手であることを気付かれないために必要なことで、私だけでなく、父のためでもある。そうとさえ思っていました。

ところが、これらの私の考えは、完全に間違っていると気付かされる出来事がありました。

ある日、家族で買い物をしていたときのことで、私は、父の靴ひもがほどけていることに気が付きました。そこで私は、いつもと同じように結ぼうとしました。が、しかし、予想もしていなかった言葉で父に断われました。

「俺はやればできる子だから。」

父は、そう笑って言いのけ、実際にやりとげました。どう結んだのかは分かりませんが、そこで私は気が付きました。今までの行動は良心ではなく、単なる押し付けだったのです。

そもそも、「やってあげなければ。」という考え自体が恩着せがましく、そこ

平成26年度法務事務次官賞

神奈川県・厚木市立荻野中学校3年 坂 碧人（さか あおと）

※学校名、学年は受賞当時

から得た幸福感など、ただの自己満足だったのです。確かに、助けられた父は楽ではあったかもしれませんが。しかし、私達家族がいつでも近くに付いていられる訳はなく、父が一人でやらなければいけないこともたくさん出てくるのです。それに義手であることを隠そうとするのは、私が周りの目を気にしているだけであり、むしろ父の存在を否定してしまっていました。父には本当に申し訳ないことをしてしまったと今では反省し、二度としてはいけないと強く思いました。

しかし、確かに、「やればできる」父は、自ら様々なことに挑戦していました。その一つとして、「アンプティーサッカー」という障がい者スポーツをやっています。フットサルのようなルールで、足のないフィールドプレイヤーと手のないゴールキーパーによって行われます。そのスポーツを始めてから、父と私で過ごす時間が増えました。その時間とは、サッカーのトレーニングをする時間です。私もサッカーをやっているため、共通の部分があり、大切な時間となっています。

しかし、それ以上に父にとってプラスになっていると思うことは、アンプティーサッカーの仲間と、辛さや心身の痛みを分かちあえているということです。そのお陰か、父の表情が以前より明るくなり、怪我をする以前のよう、明るい性格に戻りました。

先日食事に行ったときも、失った右手を通して、無邪気な小さな子供と触れ合っている姿を見て改めて、「偏見」というものをなくしていかなければならないと思いました。

父に関する体験を通して、私は障がいについてとても考えさせられました。「一切の偏見を持たず、相手の気持ちを考えて、できることには手出しをしない。」様々な体験をした結果、私はこのように考えました。これを守ることは、その人に生きる活力を与え、居場所を奪わずに済みます。「やってあげる」、ではなく、「手伝えることはありますか」、そう声をかけることが大切だと思います。

「俺はやればできる子だから。」その言葉の意味を重く受け止め、差別のない社会作りに私は少しでも貢献していきます。

授業展開例

50分の授業で

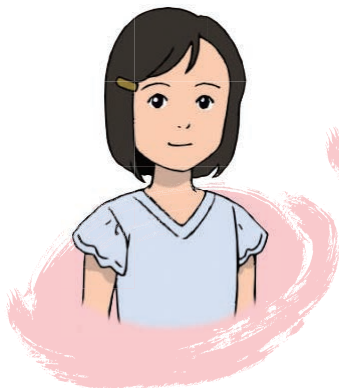
『手伝えることはありますか』

を上映した場合

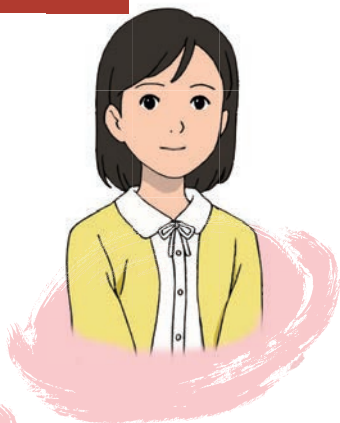
時間	項目	内容	留意点
0:00	2分間	はじまり	●入室 ●担任による 講師紹介
2:00	5分間	導入	●授業の流れ紹介 「全国中学生人権作文コンテスト」について知っていますか？
7:00	5分間	話し合い ①	●参加者の意見を聞く。 ①障害には色々な種類があります。 どのような種類があるか知っていますか？ 手や足の障害、視覚や聴覚の障害、内部障害(心臓にペースメーカー)、知的障害など ●板書例① 参加者の意見を板書にする。 ②障害のある人が、日常生活で困ることや不便なことを考えてみましょう。 道の段差、階段、字幕のない映像など

時間	項目	内容	留意点
12:00	8分間	DVD視聴	●「手伝えることはありますか」を再生
20:00	15分間	話し合い ②	●参加者の意見を聞く。 ①郁人はどのような気持ちで父親の手伝いをしていましたか？ ②父親の言葉で、郁人が気付いたことはどのようなことですか？ ●板書例② 参加者の意見を板書にする。 ※意見は紙に記入させてもよい
35:00	15分間	まとめ	●板書例③ 参加者の意見を板書にする。 ※アニメとは状況が違ったり、同じような行動はできないかもしれないので、そういう時には相談してほしいということを伝える。 ※相談方法は最後のページを参照

登場人物紹介



藍(小学生の頃)



藍(14)
小学生の時の人権学習で
小林さんと出会う。



小林さん(40)
藍と同学年の児童の父親
で、学生時代の事故で両目
を失明する。

あらすじ

主人公が、人権学習の講師として来た視覚障害のある小林さんの言葉を聞くことで、自分が今まで持っていた障害のある人＝弱者という考え方が変わっていく過程を描きます。



「方法は違うが、みんなと同じことができる」
目を閉じたまま手洗い場まで行って水をくんでくる体験をした藍たちは、小林さんからこう語られる。



藍たちは、さらに小林さんの力強いお話に聞き入っていく。



原作全文

「人権」について語る時、私達はしばしば障がいをもつ人全てを一方的に「弱者」とみなし、健常者が彼らにどれだけ多くの手を差し伸べることができるかを問題にします。私は、このことに疑念と戸惑いを感じるのです。

私が小学生の頃、同級生のお父さんにKさんという目の不自由な方がおられました。その方は高校生の時、所属していた部活動の理科実験の際、爆発事故で両目を失明するという不幸に見舞われたのです。そんなKさんが、ある時、人権学習のゲストティーチャーとして私達生徒の前で話をしてくださることになりました。

少し緊張ぎみで待つ私達生徒に、Kさんは微笑みながら「これからみんなで目をつむったまま、水を汲みに行きましょう。」と言われました。コップを手にした私達は、しっかり目を閉じ、教室の壁をつたいながら、恐る恐る足を進め、廊下の先にある手洗い場まで行きました。そして、手探りで蛇口をひねり、コップに水を汲み、飲みました。みんな口々に、

「目が見えないのって怖いよねー。」とか、
「どこに何があるのか分からないねー。」
などと言いながらも、なんとか水を飲むことができました。
そんな私達の様子を見ていた担任の先生が
「目の見えない方達が、どれほど大変で、不自由な思いをされているのかよく分かりますね。」
と言いました。

その時です。Kさんが、「先生、そうではないのですよ。私は子供達に、目が見えなくてもちゃんと一人で歩いて行き、水を飲んで飲むことができる。目の見える人とは、方法が少し違っているけれど、訓練や慣れることで、みんなと同じことが何でもできるということを知ってほしかったのですよ。」と言われたのです。それを聞いて、私は小学生ながら、少し申し訳ないような、恥ずかしいような、それでいて勇気づけられるような気持ちになったのを覚えています。

平成25年度法務事務次官賞

福岡県・筑紫女学園中学校2年 原田 碧（はらだ あおい）

※学校名、学年は受賞当時

その後、Kさんは沢山のことをお話していただきました。失明する以前から、教師になることが夢だったKさんは持ち前の精神力とガッツで大学へ行き、教師になられました。その頃の制度ではKさんのような全盲の人が教師になることは、非常に難しかったそうですが、制度の改正の為に、何年も諦めずに努力を重ねてやっと夢を叶えられたそうです。音楽が好きで、目が見えなくなってから、独学でピアノをマスターし、時々小さなコンサートを開いておられるそうで、私達に弾き語りも披露してくださったのです。

そして最後に、

「私は目が見えないことは、背が低いとか足が遅いというのと同じように、個性の一つだと思っています。だから他の人と比べて、特別に違っているとは思ってないのですよ。」

とおっしゃったのです。

Kさんは「弱者」でしょうか？とんでもありません。むしろ尊敬すべき「強い人」です。Kさんに出会う以前の私は、障がいを持つ人は皆一葉に、不自由を強いられ、気の毒で可哀想なので、優しくしなくてはいけない、手助けをしてあげなくてはいけない、と考えていました。Kさんの話を聞いていなかったら、きっと今でもそう考えていたはず。しかし、それは健常者の目線でした。物を見ていない思いあがりだったと気づかされたのです。

障がいを持つ人に対して、「気の毒」とか「可哀想」という気持ちで接すること自体、どこかで差別をしているのであり、平等ではないと思うのです。健常者も障がいを持つ人も同じように自分の足で歩いていかなければなりません。「同情」や「おせっかい」から、やみくもに手を貸すのは違うと思います。私達がするように努め、それぞれの障がいに応じ、本当に必要な部分だけサポートすることではないでしょうか？

私は、社会は色々な個性を持った人の集まりだという認識で、共に生きていくのが本当ただと思うのです。これからもその認識をもって人と接していきたいと思います。

授業展開例

50分の授業で

「共に生きるということ」

を上映した場合

時間	項目	内容	留意点
0:00	2分間	はじまり	
		<ul style="list-style-type: none"> ●入室 ●担任による講師紹介 	
2:00	5分間	導入	
		<ul style="list-style-type: none"> ●授業の流れ紹介「全国中学生人権作文コンテスト」について知っていますか？ 	
7:00	5分間	話し合い①	
		<ul style="list-style-type: none"> ●参加者の意見を聞く。 ①障害には色々な種類があります。どのような種類があるか知っていますか？ 手や足の障害、視覚や聴覚の障害、内部障害(心臓にペースメーカー)、知的障害など ②障害のある人が、日常生活で困ることや不便なことを考えてみましょう。 道の段差、階段、字幕のない映像など 	●板書例① 参加者の意見を板書にする。

時間	項目	内容	留意点
12:00	8分間	DVD視聴	
		●「共に生きるということ」を再生	
20:00	15分間	話し合い②	
		<ul style="list-style-type: none"> ●参加者の意見を聞く。 ①小林さんの話で、先生や藍が学んだことはどのようなことですか？ ②障害のある人が、普段の生活の中で困ること、不便なことに対して、それぞれの解決策や、自分たちでできることについて考えてみましょう。 	●板書例② 参加者の意見を板書にする。 ※意見は紙に記入させてもよい
35:00	15分間	まとめ	
		<ul style="list-style-type: none"> ①今日の授業を受けて、どのような感想を持ちましたか？ ②人権についての意見や考え方に変化はありましたか？ ③身近なところで、「人権」とはどのようなことか、考えたことがあれば教えてください。 	●板書例③ 参加者の意見を板書にする。 ※アニメとは状況が違ったり、同じような行動はできないかもしれないので、そういう時には相談してほしいということを伝える。 ※相談方法は最後のページを参照

「差別のない世界へ」

板書例

①「差別」

- ☆差別は絶対にしてはならない
- ☆偏見を持ち、言葉や暴力で相手を傷つけること
- ☆差別は人権侵害

②「リサ」(主人公。差別による言葉の暴力に立ち向かう)

- ☆子どもの頃からつらい思いをたびたび味わった。
- ☆仲間はすれにされたり、文句を言われたりすると、
つらくて何も言えなくなってしまう。
- ☆父からかけられた言葉を思い出す。
- ☆雄太に毅然として自分の気持ちを伝える勇気を出す。

②「雄太」(リサを差別して言葉の暴力を浴びせる)

- ☆リサを自分と違う外見だからといってからかう。
- ☆相手を傷つけてしまう発言をするが、相手に
どう伝わっているかを実感していない。
- ☆リサに「自分は傷ついている」と言われ、自分の
発した言葉の重さに気付く。

③「差別をなくすためにできること」

- ☆差別とは何かについて知る
- ☆差別意識を持たない
- ☆差別をしている人に加わらない
- ☆差別をしている人を注意する
- ☆家族、先生や友達に相談する
- ☆自分に何ができるか考える

※☆印は、参加者からの意見を想定したものです。